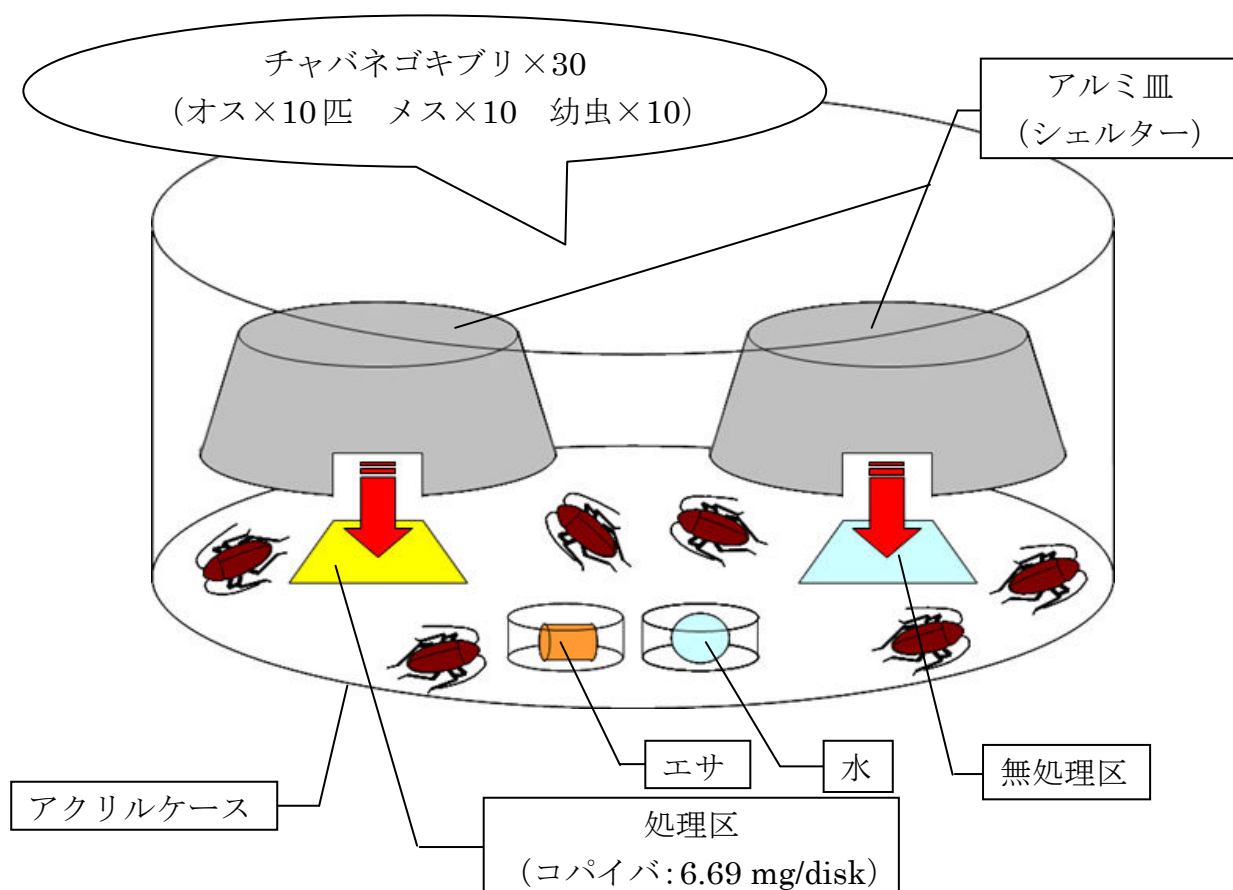


●チャバネゴキブリに対する忌避活性

内部側面にワセリンを塗った直径 30 cm×高さ 15 cm のプラスチック容器内に光を好まないチャバネゴキブリのシェルターとして、アルミ製の皿（直径 11.5 cm 高さ 3.5 cm）を裏返しにして設置した。その際、アルミ皿の 2 ヶ所を切り抜いてチャバネゴキブリの出入り口とした。

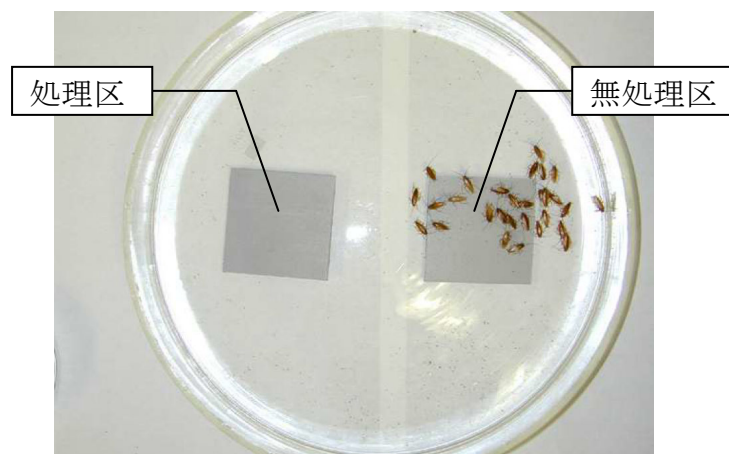
容器内にチャバネゴキブリ（*Blattella germanica*）（雄の成虫、卵鞘なしの雌の成虫、及び幼虫を各 10 匹ずつ、計 30 匹）を放ち、餌・水を与えたまま明条件化で 24 時間馴致した。馴致後には誘引性を防ぐために必ず容器内のフンを全て除去した。次に、アセトン処理を施した 5 cm×5 cm の正方形の濾紙表面に供試サンプルを 2% にヘキサンで希釈した液剤 0.5 ml 塗布した処理区（処理量：6.69 mg/disk）と、溶媒のみを 0.5 ml 塗布した無処理区を設置し、それぞれをシェルター内に入れ明条件下で 4、24、48 時間後の数を測定し、忌避率を算出した。なお、2 時間後の測定時には試験の直前に餌・水を取り除きそのまま連続で測定し、4 時間後の測定後に餌・水を与えた。また、24、48 時間後の測定時には測定 30 分前に餌・水を取り除き忌避率を算出した。



チャバネゴキブリに対する忌避試験方法

チャバネゴキブリに対する忌避試験結果①

	忌避率 (%)		
	4 時間後	24 時間後	48 時間後
コパイバオイル	96.9	82.9	64.6
ユーカリオイル	12.7	活性なし	活性なし
ジンジャーオイル	95.4	58.9	39.5
オレガノオイル	89.3	53.5	51.3
スペアミントオイル	68.5	2.2	活性なし
タイムオイル	87.7	45.4	39.9



チャバネゴキブリに対する忌避試験結果②

試験の結果、コパイバオイルにはチャバネゴキブリに対して高い忌避活性が認められた。また、比較対照として用いた他の精油は、試験開始から時間が経つにつれて忌避活性は大きく減退するが、コパイバオイルの活性は試験開始から 48 時間が経過した後も高い水準を維持した。

市原慶代ほか, 環動昆 22 (3) , 121-127 (2011)